

平成28年6月3日
第1回世田谷区子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画の見直しについて（保育利用想定部分）

1 平成27年度の保育施設整備実績について

区分	整備地等	2 / 9 見込み	実績	備考	
私立認可 保育園	【誘致型】区有地(大蔵5-7)	(福)勤能福祉会	41	41	27年7月開設
	【誘致型】国有地(弦巻5-10)	(福)水の会	129	129	27年11月開設
	【誘致型】国有地(弦巻5-10)	(福)水の会	129	129	28年4月開設
	【誘致型】区有地(大蔵5-7)	(福)勤能福祉会	39	39	
	【誘致型】国有地(深沢1-32)	(福)菊清会	120	120	
	【提案型】(桜新町2-12)	(株)ベネッセスタイルケア	63	63	
	【提案型】(経堂1-41)	(株)ポピンズ	45	45	
	【提案型】(深沢4-25)	(福)こころ福祉会	75	75	
	【提案型】(南烏山2-33)	(福)福翠会	110	110	
	【提案型】(等々力4-2)	(株)学研ココファン・ナーサリー	80	80	
	【提案型】(上馬5-16)	(株)Kids Smile Project	60	60	
	【提案型】(砧4-26)	長谷川キッズライフ(株)	78	78	
【その他】(上馬4-12) 宮坂3-15の保育園移転拡充	(福)東京育成園	40	40		
認証保育 所	桜新町1-32	長谷川ナーシングパートナー(株)	29	29	27年6月開設
小規模保 育事業等	岡本2-5	(福)青い空保育園	9	9	28年4月開設
その他	新制度移行に伴う定員増 10か所		94	95	
	保育室の小規模保育事業移行準備に伴う定員減 24人 18人		-5	-6	19人 18人
	私立認可保育園分園の本園化に伴う定員増 1か所		10	10	
	区立多聞幼稚園認定こども園化(保育認定枠)		8	8	
	昭和幼稚園認定こども園化(保育認定枠)		103	103	
	昭和ナーサリー(地方裁量型認定こども園)の認可保育園への移行に伴う定員減 72人 33人		-39	-39	
	羽根木こども園の増床(保育認定枠)		39	39	
	保育ママの定員増 1か所		3	2	2か所 1か所
	保育ママの定員減(年齢による認定終了) 3か所		-10	-13	2か所 3か所
	認可保育園の定員変更・弾力化		-	12	
	小規模保育事業の定員減		-	-6	
認可外保育施設の定員変更・弾力化		-	7		
合計		1,250	1,259		

子ども・子育て支援事業計画上の計画数と確保数については、別紙1「教育・保育事業の需要量見込み及び確保の内容にかかる進行管理表」のとおり。

2 平成28年度保育待機児童の状況について（平成28年4月1日現在）

保育事業・施設		平成28年度			
		定員数	前年比	施設数	前年比
		15,934	1,259	238(256)	14(13)
内訳	区立保育園	5,208	10	49(50)	0
	私立保育園	7,864	1,381	82(99)	20(19)
	認定こども園	350	78	5	1
	家庭的保育事業	50	0	10	0
	小規模保育事業	97	34	7	3
	保育室	389	-28	14	-1
	保育ママ	65	-16	17	-4
	認証保育所	1,899	-212	53	-6
	事業所内保育事業	12	12	1	1
保育待機児童数		1,198			16

年度別推移等の詳細は、別紙2～3のとおり

施設数の()内は分園を含めた数

3 子ども・子育て支援事業計画（保育利用想定部分）の見直しについて

(1) 需要量見込みの見直し

計画策定時の人口推計を用いた需要量見込み（平成31年度）

保育利用想定（0 - 5歳児）		
18,729（43.78%）		
2号認定	3号認定	
（3 - 5歳）	（0歳）	（1 - 2歳）
9,262	2,911	6,556
（43.21%）	（41.87%）	（45.56%）
【9,773】	【2,256】	【7,882】

【 】内は目標定員数

資料3 - 2上段の表と同様

《需要量見込みの考え方》

国の手引きに準拠し、平成25年8月に実施した調査結果から利用施設のニーズ、希望する働き方等をもとに、推計人口にあてはめて算出。

認可保育所に通う2歳児が3歳以降も保育を利用する割合は98%であることに鑑み、保育整備が進んだ際に3歳以降も保育の継続利用が想定されるため、保育利用想定の方針に補正。

と同様の考え方で現在の人口推計を用いて見直した需要量見込み（平成31年度）

保育利用想定（0 - 5歳児）		
20,284（+1,555）（43.89%）		
2号認定	3号認定	
（3 - 5歳）	（0歳）	（1 - 2歳）
9,792（+530）	3,286（+375）	7,206（+650）
（43.27%）	（42.05%）	（45.70%）

資料3 - 2中段の表と同様

《需要量見込みの考え方》

現在の人口推計を用いていること以外は 同様。

をベースにしつつ、年齢毎の進級率を適用した需要量見込み（平成31年度）

保育利用想定（0 - 5歳児）		
20,162（+1,433）（43.63%）		
2号認定	3号認定	
（3 - 5歳）	（0歳）	（1 - 2歳）
9,669（+407） （42.73%）	3,286（+375） （42.05%）	7,206（+650） （45.70%）

【参考】

平成28年3月から4月にかけての進級率					
0歳	1歳	98.0%	1歳	2歳	97.3%
2歳	3歳	95.2%	3歳	4歳	97.6%
4歳	5歳	98.2%	平均		97.3%

《需要量見込みの考え方》

3号認定枠について、で使用する人口数に対する保育利用想定数の割合を、新しい人口推計にあてはめて算出。

平成28年3月から4月における認可保育所の3歳以降の進級率（左表）を、平成28年度の2歳児が平成31年度まで進級していく想定で適用することで、保育利用想定数の2号認定枠を算出。

地域別・年度別の需要量見込みは、別紙4のとおり。

（2）認可保育施設在籍児童数（平成27年12月時点）及び平成28年4月の入園申込者数から算出した需要量見込みによる検証

		認可保育施設在籍児童数（進級率考慮） + 入園申込者数…A <平成28年4月時点>	Aから、で算出した世田谷区全域での需要量見込み総数『20,162』となるように、地域毎に増加させて算出した需要量見込み…B <平成32年4月時点>	就学前人口に対するBの割合
世田谷地域	0歳	532	704	32.13%
	1-2歳	1,751	2,317	53.36%
	3-5歳	1,938	2,567	42.21%
	合計	4,221	5,588	45.71%
北沢地域	0歳	267	354	32.75%
	1-2歳	821	1,086	52.49%
	3-5歳	980	1,298	43.17%
	合計	2,068	2,738	44.47%
玉川地域	0歳	469	621	30.96%
	1-2歳	1,513	2,000	49.00%
	3-5歳	1,838	2,432	41.43%
	合計	3,820	5,053	42.26%
砧地域	0歳	358	474	32.22%
	1-2歳	1,144	1,516	48.37%
	3-5歳	1,461	1,936	41.47%
	合計	2,963	3,926	42.34%
烏山地域	0歳	244	321	30.14%
	1-2歳	867	1,147	53.60%
	3-5歳	1,060	1,403	46.56%
	合計	2,171	2,871	46.17%
世田谷区全域	0歳	1,870	2,474	31.66%
	1-2歳	6,097	8,066	51.16%
	3-5歳	7,278	9,636	42.56%
	合計	15,245	20,176	43.65%

Bの世田谷区全域の需要量見込み合計が、『20,162』とならないのは、地域毎に増加率を掛けたことで、四捨五入等の処理による誤差である。

本算出方法は、別紙5「世田谷区内の地域別保育需要と保育所の整備予定（世田谷区全図）」の基礎データとして活用しているものである。

(3) 教育・保育事業の需要量見込み及び確保の内容にかかる進行管理表(平成27年度(H28.4)と平成28年4月1日現在の保育待機児童の状況の比較による検証

保育所等		平成27年度(H28.4)		
		2号認定 3-5歳 保育	3号認定 0歳	3号認定 1-2歳
全地域	需要量見込み	9,070	2,917	6,577
	確保策	8,770	1,635	6,432
	実績	8,316	1,503	6,115
	-	-454	-132	-317
	待機児童数	4	460	734
世田谷	需要量見込み	2,437	937	1,791
	確保策	2,409	487	1,812
	実績	2,266	468	1,764
	-	-143	-19	-48
	待機児童数		134	205
北沢	需要量見込み	1,286	389	931
	確保策	1,217	204	825
	実績	1,128	176	785
	-	-89	-28	-40
	待機児童数	3	76	94
玉川	需要量見込み	2,471	675	1,794
	確保策	2,279	432	1,730
	実績	2,099	383	1,593
	-	-180	-49	-137
	待機児童数	1	109	168
砧	需要量見込み	1,377	515	1,020
	確保策	1,592	286	1,137
	実績	1,656	284	1,173
	-	64	-2	36
	待機児童数		83	152
烏山	需要量見込み	1,499	401	1,041
	確保策	1,273	226	928
	実績	1,167	192	800
	-	-106	-34	-128
	待機児童数		58	115

(4)(1) (1) (2) (3) から考える需要量見込みの課題

現在の子ども・子育て支援事業計画においても、0歳児の需要量を満たす確保策とはせず、1歳児枠の拡充により待機児童解消の方向性を打ち出しているところだが、新しい人口推計においては、さらに0歳児人口の増加の影響を受けることになるため、0歳児の保育需要と供給のギャップがさらに大きく開くこととなった。

0歳児保育の需要が、一定程度、育児休業明けで保育施設へ預けることが困難である現状を踏まえた前倒し入園希望が多いことが推測されることから、本来的な0歳児の需要量がここまで大きいものかどうかの判断は難しい。

この点に関しては、(2)で検証している需要量見込みは、0歳児の需要割合は低くなっており、その分1歳児の需要割合が高くなっている傾向が出ている。

(1) で算出している現在の子ども・子育て支援事業計画における需要量見込み及び見直し後の需要量見込みと(2) で検証している需要量見込みの比較、(3) の平成 28 年 4 月 1 日時点の需給ギャップと待機児童数の比較から、砧地域の保育需要が、計画と実態で大きく乖離している可能性が高く、現状の考え方のままでは、砧地域は待機児童がかなり多い状況にあるものの、保育定員枠の拡充を必要としない地域であると判断されてしまう。

(5) 子ども・子育て支援事業計画の見直しの方向性

平成 25 年 8 月に実施した調査結果から利用施設のニーズ及び希望する働き方等、区の基本計画等の基礎となる人口推計は、子ども・子育て支援事業計画の策定にあたって、非常に重要な基礎資料となっている。一方で、(2) で検証しているように、現時点で認可保育施設の在園児もしくは入園申込者も保育需要の実態であるとも言える。

このため、需要量見込みについては(1) の考え方を採用するが、(2) や(3) で検証している現在の需要の実態を踏まえた確保策を計画することで、世田谷区全域における需要と供給のバランスを取るように、今後、子ども・子育て支援事業計画見直し検討部会にて検討を行い、7 月に開催予定の子ども・子育て会議にて、その検討結果を報告したいと考えている。